

社会福祉振興助成費補助金 助成事業に役立つ ヒント集

福祉と医療の
民間活動を
応援します!



独立行政法人福祉医療機構 助成事業部

ぜひ事業にお役立てください！

独立行政法人福祉医療機構（WAM）では、NPO法人やボランティア団体などの民間団体が実施する福祉活動に助成を行っています。

これまで、長寿・子育て・障害者基金の助成金として、毎年度約800件から1,000件の事業に対して約30億円の助成を実施してきましたが、平成22年度の助成分からは社会福祉振興助成費補助金として新たにスタートすることとなり、一層ご利用いただきやすい助成制度を目指しています。

また、WAMではこの助成制度を通して、単に助成金を配分するだけでなく、助成事業とその成果を評価することや優良事例の情報提供などを行い、事業の節目や様々な場面においてお手伝いすることで、団体やその活動がさらに発展するような支援を目指しています。

この冊子では、限られた助成金をより一層効率的・効果的に活用していただくために、これまでの助成などのお手伝いを通して得られた、団体の皆さんが事業実施する上で参考になると思われるようなヒントやポイントを取りまとめ、紹介させていただきます。

新たに助成事業を実施される団体の皆さんはもちろん、今後計画しようとお考えの皆さんなどにも幅広くご覧いただき、少しでも活動の参考にしていただくことで、団体やその事業が一層発展し、ひいてはその先におられる地域のお年寄りや子どもさん、障害のある方々などのための活動が、ますます充実することにつながれば大変幸いです。

平成22年7月

目 次

1 助成金の意義とその活用

助成金とは？	1
上手な助成金の活用を	2

2 WAMの助成制度について —社会福祉振興助成事業—

WAMの助成制度とは？	3
お申込みからの流れ	4
お問い合わせは…	5

3 事業実施のためのヒント

①事業実施前に…

・ 事業を計画するにあたって	7
・ 他の団体の活動事例を参考にしたいのですが	9
・ 参加者や利用者、ボランティアをたくさん集めるために	11

②事業実施中に…

・ 事業を行う時に、どんなことに注意したらよいか	13
・ 活動中のリスクにどう備えるか	15
・ 適切な会計処理のために	16

③事業実施後に…

・ 年度末の成果の報告とは	19
・ 助成事業の成果を広く知らせるための報告書作成を	20
・ 助成事業終了後は…	21

4 活動の活性化のヒント

新聞やテレビ、ラジオなどで紹介してもらうには	23
自分たちの活動を、さらに自信をもって進めていくためには	24
協力してくれた方々と息の長い関係を続けていくためには	25
活動を継続させていくためには	27
助成金獲得のコツとは	30
最近よく耳にする「プロボノ」とは	33

5 資料集

NPO法人制度についての豆知識	35
・ NPOとは？	
・ 特定非営利活動法人制度とは？	
・ NPO法人化のメリット・デメリットは？	
WAM以外の助成団体は？	37
他に役立つサイト何かありますか？	39



1

助成金の意義とその活用

助成金とは？

団体が活動を行う際には、まず活動するための資金の確保が必要となります。

資金の財源の例としては、メンバーや会員が持ち寄った会費、地域の皆さんからの寄付金、バザーなどの収益活動による収入、公的な補助金や委託費などのほか、WAMや様々な助成財団などからの助成金などが考えられます。

ではこのうち、「助成金」とはどのような性格の資金なのでしょうか？
助成金とは、団体の特定の活動や事業を支援するために、審査などの手続きを経て提供されるお金と考える事ができます。通常、まとまった額の資金を、無償で受けることになり、新しい活動の立ち上げや新たな事業展開のためには、非常に有効な財源となります。

ただし、単に「お金がもらえる」ということではなく、申請から精算までの間の手続きに必要な努力は、決して簡単なものではありません。

当然、様々な団体が応募することで競争となるため、審査を突破する必要があります。

他の応募に競り勝って審査を通過するためには、単に募集しているテーマや申請の条件に合致しているだけでなく、その計画が秀でて有益な活動であり、地域や社会に大きなメリットをもたらすものであることが求められます。

また、WAMの助成金をはじめとして、いずれも公共性の高い資金であるために、厳正な取り扱いや明瞭な精算事務などが求められてきます。

特に、WAMの助成金は国庫補助によってまかなわれる公的な資金であるために、関係法令等により、一層適切な取り扱いが求められること

となります。

こうした大きな社会的責任や一定の制限は伴いますが、誠実に手続きを踏めば、助成金の利用は決して難しいものではありません。民間福祉活動を行うためには非常に強力な資金となります。

上手な助成金の活用を

助成金は新しい活動の立ち上げなどに、大変強力な財源となりますが、同じ事業に対して何年も継続して支援することは少ないといえます。これは、WAMの助成金をはじめ、ほとんどの助成金は限られた資金をより多くの団体に利用してもらいたいと考えているからです。

また、活動の多くの割合をきまった助成金などに長い間支えられていると、一定の事業を行うことが目的となってしまったり、新しいことに挑戦しようとする向上心や団体自身の主体性が薄れてしまったりしないとも限りません。

反対に、あてにしていた助成金の審査が通らなかった場合、財源の確保が難しくなり、事業を縮小したり、中断せざるを得ないということもあり得る事態です。

そこで助成金の活用を考える際は、助成金を利用した後の財源の手当てや事業の発展の方向性、あるいは審査が通らなかった際の代替りの財源をどのように確保するかなどについて、あらかじめ団体内でよく検討し、将来の明確なプランを立てておくことも非常に重要なことです。

この冊子などを参照していただきながら、活動の立ち上げや新たな展開に、上手に助成金をご活用ください。



2

WAMの助成制度について —社会福祉振興助成事業—

WAMの助成制度とは？

それでは、WAMが行っている助成制度「社会福祉振興助成事業」について、簡単にご紹介します。

○制度の概要

この「社会福祉振興助成事業」は、「政策動向や国民ニーズを踏まえ、民間の創意工夫ある活動や地域に密着したきめ細やかな活動等に対し助成を行い、高齢者・障害者が自立した生活を送れるよう、また、子どもたちが健やかに安心して成長できるよう必要な支援等を行うこと」を目的としています。つまり、様々な民間の福祉活動を助成金という形で幅広く応援していくための制度ということができます。

○助成対象者

特定非営利活動法人、社会福祉法人などに加え、法人格をもたない非営利の任意団体（ボランティア団体など）も対象としています。

○助成対象事業

助成対象事業は、上記の団体が自ら行う、社会福祉の振興に寄与する営利を目的としない事業です。なお、応募の際は、次の3つの助成区分をよく確認の上、お申し込みください。

先進的・独創的活動
支援事業

社会福祉の振興に資する創意工夫ある事業又は全国若しくは広域的な普及等を念頭に施策等を補完若しくは充実させる事業

地域活動支援事業

社会福祉諸制度の対象外のニーズその他地域の様々な福祉ニーズに対応した地域に密着した事業（助成金は300万円まで）

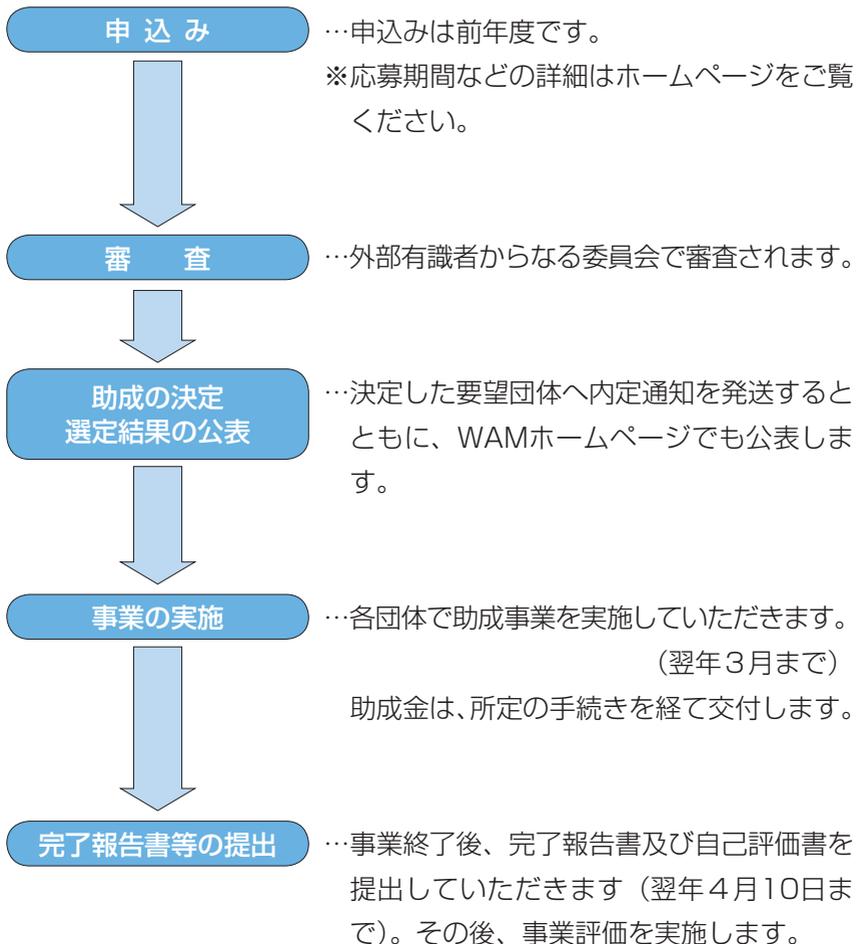
障害者スポーツ支援
事業

障害者スポーツを通じ障害者の社会参加を促進する事業

※毎年秋～冬に翌年度助成分の募集案内が、WAMホームページ <http://www.wam.go.jp/wam/>に掲載されますのでご覧ください。

お申込みからの流れ

WAMへ助成金をお申込みいただいてからの流れは次のとおりです。



お問い合わせは……

助成事業の応募や各種事務手続きのご案内はもちろん、例えば、「計画中の事業の参考になるような助成事例」など、どうぞお気軽にお問い合わせください。

〈お問い合わせ先〉

○資金の交付手続きについて

助成企画課 ☎03-3438-4756

○助成事業の応募や事務手続きについて

支援課 ☎03-3438-9945～6

○助成事例の紹介や事業評価について

評価課 ☎03-3438-9942

〈電話：月曜日～金曜日AM8：45～PM5：30（土日祝祭日を除く）〉

〒105-8486

東京都港区虎ノ門4-3-13神谷町セントラルプレイス9階

独立行政法人福祉医療機構 助成事業部

メール wam_jyosei01@wam.go.jp

FAX（共通）03-3438-0218

<http://www.wam.go.jp/wam/>

お気軽にご連絡ください！

福祉と医療の
民間活動を
応援します！

WAM

独立行政法人福祉医療機構 助成事業部



MEMO



A large rectangular area containing 20 horizontal dashed lines for writing.

3

事業実施のためのヒント

①事業実施前に…

事業を計画するにあたって

「地域の中にこんな問題で困っている人がいる」、「私たちが何かできないだろうか？」…。事業を始めようとするきっかけの根本は、こうした気持ちだと思いますが、それを具体的な計画にするにはどうしたらよいでしょうか。

○まずニーズを把握

問題だと感じたものが、どのような質とどれだけの量で存在するのか？そして、その問題で困っているのはどんな方たちで、どこに何人ぐらいいるのか？

具体的な計画を立てるためには、まずこうしたニーズを把握することが大切です。

大々的な調査をしなくても、普段のお付き合いやお茶飲み話から事情を聞いたりできる場合もあれば、アンケートや意見箱などの方法もあります。

○私たちにどんなことができるか？

地域のニーズを調べたら、それに対処する活動の姿を考えま

例えば…

近所の独居のお年寄りの何人かが健康を崩しがちなことに気がつき、ご本人たちにお話を聞くと、どうも食生活が不規則になっています。買い物に出掛けるのも大変だし、一人だからどうしても簡単なもので済ませてしまう…。

それでは、同じような独居のお年寄りがこの地区のどこに何人ぐらいおられるか？よくよく町内会や民生委員さんなどに聞くと、こちらに1人、道の向こうに2人と、合計15人くらいおられ、皆さん隣の地区のスーパーに行くのが大変らしい…、といったところからスタートでしょうか。

す。メンバーで話し合い、「こんな活動をしたい！」という気持ちを共有し、「自分たちがしたいこと」と、「自分たちにできること」を分けて考え、場合によっては書き出してみます。その上で「したいこと」を実現するために不足しているものをつきとめます。

大切なのは、リーダーが一人で全てを考えるのではなく、メンバー一人ひとりが考えることです。また、自分たちの力量でできるのか、何が足りないのか、立ち止まって振り返る冷静さも重要です。

○具体的な計画を書いてみる

例えば、前頁の例で独居のお年寄りにお弁当を配りながら、見守り活動を行おうとした場合、

- ・どのように行うのか（誰が作り、誰が配るか、どこで作るか、週何回行うか、費用や料金はなど）
- ・その活動を行うことでどのような効果があるのか（食生活が改善する、定期的な見守りや安否確認ができるなど）
- ・どのような発展が期待できるか（地域の活動に連れ出す、独居の方たちの仲間同士の会を組織するなど）

…など、書き出した上で整理してみるだけで、計画の素案が生まれ、ひいてはそれが助成金の申請の骨格にもつながっていきます。

○地域との連携

自分たちの力でミッションを達成するために努力することは大切ですが、ぜひ地域の皆さんと連携することも意識してみてください。会の限られたメンバーだけでなく、行政、自治会・町内会、学校、福祉施設、医療機関、警察、消防、病院など、地域の様々な人が参加して下さることで、活動の幅がぐっと広がります。

そのためにも、普段からのお付き合いや、広報活動など団体の活動をよく知っていただく努力が重要です。

他の団体の活動事例を参考にしたいのですが

他の団体の活動事例を知ることは、助成金の申請のためというだけでなく、活動全体の幅を広げるために大変参考になります。

日頃から福祉関係の専門誌の活動事例の記事などを参照する方法のほか、最近ではインターネットで気軽に助成事例を検索できるサイトを持つ助成財団なども増えています。

事業の概要だけでなく、どのような事業が助成されているか知ることができます。連絡先が掲載されている場合、連絡を取って、詳しい事業の状況や助成申請のヒントなども聞けるかもしれません。

まずはWAMのホームページをご覧ください。

① 「WAM助成 e-ライブラリー」

WAMでは、ホームページ上の「WAM助成 e-ライブラリー」で、これまで助成した各地の事業の概要を公開しています。

キーワードや地域を指定して検索することもできます。ぜひご利用ください。

② 「優れた助成事業の紹介」

また、同じくWAMのホームページの「助成事業の事業評価について」の中に掲載されている、「優れた助成事業の紹介」もぜひご覧ください。ここに紹介されている活動事例は、助成事業実施後に行われた事業評価において、特に優れた活動と認められた助成事例です。ぜひ参考にしてください。

〈検索方法〉

- ① WAMのホームページへ
<http://www.wam.go.jp/wam/>
- ② 「社会福祉振興助成事業」を選び、クリック
- ③ 「WAM助成 e-ライブラリー（電子図書館システム）」を選び、クリック
- ④ 画面上の検索条件（フリーキーワード、団体名、地域など）を入れて検索
- ⑤ 表示された検索結果の中から、見たい事例をクリック
- ⑥ 助成事例の事業概要が表示されます。

WAM 独立行政法人福祉医療機構 トップページ サイトマップ	
● 社会福祉と特別助成事業の概要	社会福祉と特別助成事業の概要を掲載しています
● 平成22年度助成事業の概要について	平成22年度WAM福祉医療特別助成事業の概要は平成22年6月30日をもって終了いたしました
● 助成事業のふし	よりあるご質問に対する回答を掲載しています
● 平成22年度助成事業のご案内	平成22年度助成事業のうち、平成22年4月1日に決定した事業の一般を掲載しています
● テーマ設定による助成事業の取組（特別活動支援型プロジェクト）	平成22年度内閣府活動支援型プロジェクトの取組については、内容が決定次第掲載いたします
● 助成事業の事業詳細について	助成事業の詳細結果及び選れた事業の紹介を掲載しています
● 助成成果レポート（電子図書システム）	平成18年度以降に助成した事業の概要等について検索できます 各助成事業の成果物については、随時掲載していく予定です
● 発行誌「はねと」電子コンテンツ」	平成22年3月末で発行していた「はねと」情報誌（発行：はねとコンテンツ）のバックナンバーをPDFでダウンロードできます
● 「事業報告会」のご案内	平成22年度の「事業報告会」の詳細は決定次第掲載いたします
● イベント—事業報告会開催報告	これまでに開催したセミナーや事業報告会の概要を掲載しています

○WAMにご相談ください！

毎年1,000件近くの事業をお手伝いさせていただいている中で、お探しのよう活動事例、団体などをご紹介できるかもしれません。

まずはお気軽にお電話ください！

03-3438-9942 助成事業部 評価課（直通）

…他にも様々な助成財団などが、ホームページ上で過去の助成事業の概要を公開しています。

日本財団 CANPAN 団体データベース

https://canpan.info/dantai_list_view.do

中央共同募金会 赤い羽根データベース「はねと」

<http://hanett.akaihane.or.jp/hanett/>

参加者や利用者、ボランティアをたくさん集めるために

せっかく計画する活動ですから、できる限り多くの参加者や利用者を集めて、地域の役に立ちたいとお考えだと思います。

反対に、PR不足などで予定していた数の参加者や利用者が集まらなると、活動も盛り上がりは欠け、メンバーのモチベーションが下がったり、費用対効果も下がり、地域の理解も得にくくなります。中には活動を中断せざるを得ない事例も残念ながら毎年見受けられます。

そのためにも、ニーズ把握（P.7）とともに、事前の準備やPRなどが非常に重要です。

○ターゲットに合わせたPR方法を選ぶ

例えば「参加者募集のお知らせ」とひとと言っても、チラシの配布、インターネットの利用、口コミなど、その方法は様々に考えられます。また、身近な地域レベルの活動と、市町村レベル、都道府県や全国レベルの活動とではその方法もおのずと変わってきます。

地域レベルでの広報では、やみくもにチラシをポスティングしたりするより、町内会の回覧板や学校に配布をお願いしたり、公民館などの公的施設に置いたり、市町村や社会福祉協議会（社協）の広報紙に掲載を依頼したりなど、情報を知ってもらったり参加を呼びかけたい層や地域へ、効率よく届くようにする必要があります。そのためにも、関係者との日頃からのお付き合いが非常に重要となります。

○地域レベルの事業でも、マスコミを活用？

身近な地域での活動であっても、マスコミにもぜひ連絡を取ってみましょう。全国紙なら

WAMの助成では…

助成金で行われる事業の広報チラシなどには、「福祉医療機構（WAM）の助成による事業」であることを明記していただいています。

公的資金が使われていることを表示することで、地域や行政などから信頼を得ることもつながります。

地方の支局へ、地元新聞であれば家庭欄や地方欄の担当部署へ。ダメもとでも、もし数行のお知らせでも掲載されたいのであれば。

また、テレビ、ラジオなども、地方局やNHKの支局などは、地域の情報を探しています。募集広報でもイベント情報でも、遠慮は禁物です。まずは情報を入れてみるところから関係が生まれていきます(※P.23)。

○インターネットの活用

団体がホームページを持っていれば、募集広告を掲載することもできますが、より多くの方に目にしてもらうには、様々な情報ポータルサイトへ記事掲載やリンクを依頼することもお勧めします。

NHKボランティアネット

<http://www.nhk.or.jp/nhkvnet/>

Yahoo!ボランティア

<http://volunteer.yahoo.co.jp/do/>

NPOリンク

<http://homepage3.nifty.com/npolink/>

こうした掲示板などでは、自分たちの募集広告を掲載するだけでなく、他の団体の告知もよく読んでみると、募集原稿の上手な書き方の参考にもなります。

あるいは、最近は様々なメーリングリスト(ML)なども大変盛んです。情報を得るだけでなく、伝えたい情報を掲載して十二分に活用してみてください。

②事業実施中に…

事業を行う時に、どんなことに注意したらよいか

申請内容が採択され、助成金が交付されることになったら、助成事業を開始することになりますが、その際、どんなことに注意したらよいでしょうか。

○話し合いと万全な準備

事業を計画した時と同様（P.7）、あらためて具体的な実施のために必要な準備について、しっかり打ち合わせることが大切です。計画時に把握したニーズとそれに対処するための事業の目的を再確認し、その実現のために行うことと、実施スケジュール、役割分担・担当者を具体的に固めていきます。

その際に、特に早めに手配した方がよいのが、次のような事項です。

WAMの助成では…

- 当初計画から事業内容に変更が発生しそうな時は、必ず事前にご相談ください。
- イベント開催などで、他の団体よりご協力いただく際は、主催を併記したり、共催と表示するのではなく、ご自分たちが主催団体であることを明確にし、責任や会計区分を明らかにする観点からも、後援・協力・協賛などで明示してください。

研修・講演会やイベントなどの実施

講師との調整、会場確保、保険の加入、後援名義の依頼、参加者への広報の手段や広報先の決定・依頼など

マニュアル作成、調査研究、情報提供

企画委員会や編集委員会等の立ち上げ、調査対象への事前説明などの配慮、執筆分担や配布対象の検討など

広場・サロンや配食などのサービス提供

活動場所の確保・整備、保険の加入、担い手の確保と研修の実施、参加者や利用者への広報手段の検討など

○基本中の基本、適切な会計処理

どんなに素晴らしい活動であっても、会計処理がずさんになされていた場合、せっかく築いた信頼も一気に失ってしまいます。

特に、WAMの助成金は国庫補助によってまかなわれている公的な資金であるため、より適切な取り扱いが求められます。

一人の担当者に任せきりにせず、必ず複数の眼でチェックし、基本的な決まり事をしっかり守って誠実に処理を行えば、決して難しいものではありません。正確な会計処理と活動実績を重ねることで、地域での信頼も高まっていきます。(P.16)

○活動記録やアンケート … 忘れてしまうと「あとのまつり」

いつどんな活動を実施して、どんな方が何人参加され、どのような状況で、どんな課題があったかなどの活動記録は、その後の活動のための記録としてだけでなく、助成事業の完了報告の際などにも、データとして大いに役立ちます。併せて、デジカメで写真を残しておくことなどもお勧めします。

また、参加者や利用者からアンケートをとることも、単に感想を聞かせていただくだけでなく、改善すべき点に気付いたり、新たなニーズを知ったりすることにもつながっていきますので、ぜひ実施されることをお勧めします。

そして、活動記録もアンケートも、忙しいとついつい忘れがちですが、思い出した時には「あとのまつり」になってしまっていることも多いものです。ぜひタイムリーに行ってください。

○活動の効果的なPR

活動の様子を積極的にPRしていくために、新聞やテレビ、ラジオなどのマスコミに告知や取材をお願いする方法もあります。地方欄の部署などでは、地域の情報を求めていますから、決して敷居は高くありません。ぜひ挑戦してみてください。(P.23)

また、記事などのコピーをWAMにもぜひお送りください。内容によって、WAMからも様々な方法で他の団体等へご紹介させていただきます。

活動中のリスクにどう備えるか

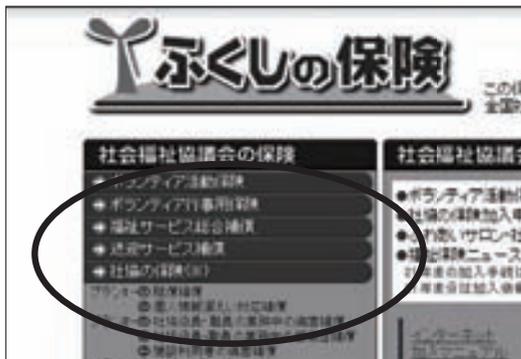
せっかく地域のお役に立とうと行った活動であっても、事故やけが、物品の破損などの不測の事態が全く起こらないという保証はありません。

こうしたリスクをどう防ぐか、あるいは起こってしまった際のためにどう備えるかなどの点について考えてみましょう。

○転ばぬ先の杖、「損害保険」

単発の行事やイベントなどは、一般のイベント保険でも対応可能ですが、継続的な活動にはそのための損害賠償保険へ加入しておくとう安心です。

例えば、「ふくしの保険」のページでは、各社会福祉協議会が窓口になって加入を受付けている活動保険などが紹介されていますのでご参照ください。



<http://www.fukushihoken.co.jp/>

※社会福祉法人全国社会福祉協議会が団体契約をしている保険のため、加入者に制限があります。

○バリアフリーやユニバーサルデザインのチェックで

日頃の活動場所はもちろん、イベントなどで利用する会場や器具などは、計画の段階での下見をお勧めします。

特に、通路やトイレの位置や形式、段差の有無、スタッフの配置など、活動当日の様子をイメージすると、あらかじめ問題に備えることができます。

適切な会計処理のために

助成金の取り扱いには、どうして適切な会計処理が求められるのでしょうか。また、適切な会計処理を行っていくためには、どのような点に注意すべきでしょうか。

○WAMの助成金の位置づけ

WAMの助成金は、国庫補助によってまかなわれているために、特に適切な取扱いや明瞭な精算事務などが求められています。

そして、その取扱いに当たっては、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」などの関係法令や規程などが適用され、不正や不明瞭な使途などの違反行為があった場合、助成金の返還請求等を行うことがあります。また、助成金で行われた事業については、WAMの監査や会計検査院の検査などの対象になります。

それだけ公的な色彩の強い助成金であるということがわかります。

○適切な会計処理は「信頼の証」

WAMの助成金の取り扱いをはじめ、団体運営にとって会計処理を確実にやっていくことは非常に重要です。地域のために懸命に活動していても、会計処理が問題として取り立たされると、せっかく活動実績を積み上げて築いた信頼も、一気に失ってしまいます。また、会計面で信頼されていなければ、行政からの補助や委託などの話もくることはなくなってしまいます。一度失った信頼を取り戻すためには、大変な努力と時間が掛かります。

しかし、こうしたことのないよう、一人の担当者に任せきりにせず、団体全体で基本的な決まり事をしっかりおさえ、誠実に処理を行えば、決して難しいことではありません。適切な会計処理は、団体の活動の「信頼の証」となります。

○会計処理のツボ

それでは、WAMの助成金を取り扱う際の、日常的な会計処理のツボとしてどんな点があげられるでしょう。最も基本的な4点を挙げると…

- ・お金の出入りは、口座を通して通帳に記録を残す。
- ・支払いには、個人名ではなく必ず団体名で領収書を受取る。
- ・領収書は費目ごとに日付順に整理して、大切に保管する。
- ・あまり間を空けずに、定期的に帳簿をつける。

簡単にいえば、お金の流れが誰の目からも明らかに分かるように記録を残す、という作業を積み重ねていくことです。

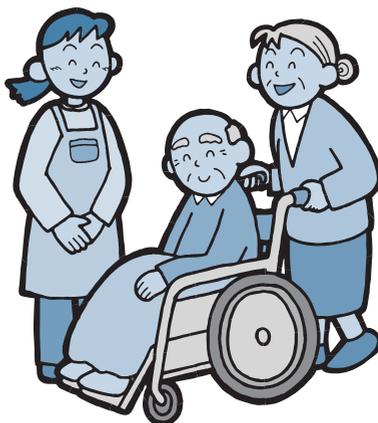
また、これまでの助成事例から次の点もぜひお気をつけください。

- ・会計担当者を一人に任せきりで、不正を見抜けなかった、あるいは、担当していた人が団体を離れたら、誰もわからなくなってしまった。
- ・研修会の講師など、外部の方への謝金の支払いの際に、領収書をいただくのを忘れてしまった。
- ・3月の経費の支払いが年度を越えて4月になってしまい、助成金の対象にならなくなってしまった。
- ・少しくらいの計画変更なら大丈夫だろうと、特に相談せず、当初計画にない備品を買ったら、助成金の対象にならなかった。
- ・成果物（報告書、チラシ、ポスターなど）に、助成金で作成した旨の表示を明記するのを忘れ、助成金の対象にならなかった。
- ・飲食店内での会食やアルコール代などは、当然ながら助成金の対象にはなりません。
- ・賃金（アルバイト）の支払いに際しては、賃金台帳や出勤簿、業務日誌などの必要書類を整備する。
- ・旅費、謝金は、あらかじめ団体で支給規程を定める。

なお、WAMの助成金で行った事業に関する領収書などの会計処理に関わる書類は、助成事業終了後5年間の保管義務がありますので、大切に保存しておく必要があります。(P.21)

その他、ご不明な点、疑問な点はもちろん、計画の変更についてなど、お気軽にWAMにお問い合わせください。

03-3438-9945～6 助成事業部 支援課（直通）



年度末の成果の報告とは

WAMの助成金の場合、助成事業の成果の報告をとりまとめて4月10日までに提出することとされています。

○完了報告書

助成金の精算を行うとともに、事業の実施内容等を報告します。したがって、一連の書式のスムーズな作成・提出のためにも、助成事業実施中の適切な会計処理（※P.16）と、活動の記録（※P.14）が非常に大切になります。

また、WAMの監査や会計検査院の検査などにおいても、重要な書類となりますので、慎重な作成に心掛けてください。

○成果物

助成金によって作成した、事業の報告書やチラシ、パンフレット、ポスター、DVDなどの成果物については、各2部ずつご提出いただけます。

これらの成果物には、必ず「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」と表示してください。表示のない場合は、助成対象経費から除外されることもありますので、あらかじめ十分注意して作成してください（※P.11）。

○自己評価書

助成事業終了後に、団体自身が自己評価をする様式です。事業全体を振り返ることで、あらためて課題や改善すべき点、今後の活動展開のためのヒントなどが整理できます。したがって、個人の見解ではなく、団体内でよく話し合った上でご記入ください。

また、新聞などマスコミに取り上げられた記事などありましたら、併せてご提出ください。

助成事業の成果を広く知らせるための報告書作成を

助成事業で得られた成果は、助成期間が終了しても、積極的にPRすることで、以後の活動のステップアップにつなげてください。

○報告書で成果を積極的にPR

成果物として作成する事業の報告書についても、WAMへの報告のために形式的に作るのではなく、助成事業の全体像や成果などをとりまとめて、活動や団体の理解を深めてもらうツールとして作成しましょう。

その際、事業目的、計画経緯、日時・場所・人数などの基礎データ、実施内容、成果や課題、今後の展開や提言などをまとめていきます。したがって、ここでも活動の記録（※P.14）が非常に大切になります。

報告書は、後半の「この事業を行うことを通して、どんな成果や課題が得られ、今後どうすべきか」という部分が最も重要で、助成事業はこの部分を得ることを目的に行われると言っても過言ではありませんが、残念ながら実施状況は詳細に書かれていても、こうした記述が極く少ない、あるいは全くないものも毎年散見されますので、ご注意ください。

公的資金を利用した効果を最大化するとともに、社会的責務としても事業の成果をしっかりと外へ伝えていくことが大切です。

○読みやすくするコツ

また、「非常に大切な事業だ」、「このような事業に取り組んでいる団体はぜひ応援したい」といった理解を促進させるためのツールとして、

効果的に作成するためには、次のような読みやすくする工夫も大切です。

報告書を読みやすくするコツ

- ・ 文脈をパラグラフに分けて、読みやすく整理する。
- ・ なるべく平易な表現に心掛けるとともに、関係者が日常的に使っていても、外部の読み手が理解しにくい表現などがないか気をつける。
- ・ 細かい文字の羅列や講演のテープ起こしに終始すると読みにくい。
- ・ 図やイラストなども活用し、印象でとらえやすくなる工夫をする。
- ・ 利用者や参加者からのアンケート結果や生の声などを掲載することで、内容に説得力を持たせる (P.14)。

助成事業終了後は…

助成期間が終了し、精算手続きも終えたのちも、いくつかの約束があります。また、事業全体の振り返りなど、団体全体で行った方がよいこともあります。

○関係書類の5年間の保管義務

助成事業に関する書類、特に領収書・通帳などの収入・支出の証拠書類、会計帳簿、完了報告書の写しなどは、助成事業終了後も5年間保管が義務付けられています。引き継ぎなどは確実にを行うようにして、担当者の転居や役員改選などの際は特にお気をつけください。

○監査

助成事業終了後も、WAMの監査、会計検査院の検査などの対象となります。上のような書類の整備や保管が不十分で、適正な支出等が証明できない場合、助成金の決定を取り消し、助成金を返還していただくこともあります (P.16)。

○事業全体の振り返り

実施した事業や手続きなどについての振り返りを、団体全体で行うことは大変意味があります。事業についての振り返りは、地域の課題を再整理し、達成した成果、未解決な問題などを確認することで、次の事業展開や今後の団体の方向性などを考える上で大いに役立ちます。

また、事務手続きについての振り返りを行い、団体メンバーの事務が洗練されていくことで、以降の助成金申請に役立つだけでなく、補助金や委託事業などを受けられる基礎体力を培うことにもつながります。

○さらなるステップアップ…NPO法人格の取得はいかがでしょう

まだ法人格のない団体は、助成事業で信頼も団体自身の自信も高まってきたら、NPO法人の取得に挑戦されてはいかがでしょうか。契約の主体として登記、車の登録などが可能となり、行政からの補助や委託事業、各種の助成金、融資なども受けやすくなります（P.35）。



4

活動の活性化のヒント

新聞やテレビ、ラジオなどで紹介してもらうには

- ・私たちの活動をできる限りたくさんの人に知ってもらいたい
- ・せっかくの研修会、たくさんの人に集まってほしい

○まずは伝えたいことを整理しましょう

先方が取材しやすいよう、まずは行事等がある際に案内してみましよう。その際、目的、参加者、日時、場所、参加料、連絡先、締切など、必要な情報をコンパクトにまとめたものを作り、電話した上でFAXなどで見てもらうと、内容に興味を持ってもらいやすくなります。

もちろん、特別なものでなくてもA4一枚くらいのメモか、お知らせ用に作ったチラシなどで大丈夫です。あまりたくさん書き過ぎると読んでもらえないので、シンプルなものの方がよいでしょう。

○勇気を出して連絡してみましょう

マスコミというと、ちょっと敷居が高く感じるかもしれませんが、伝えたいことが整理できたら、勇気を出してまずは連絡してみましょう。新聞であれば家庭欄や地方欄の担当部署へ、テレビやラジオなどはニュースや情報番組などの担当へ。ダメもとでも、もし数行のお知らせでも掲載されたらしめたもの。効果は予想以上です。

○継続は力なり

もし、すぐに取材につながらなくても、あきらめないで継続して情報提供することが大切。ネタがない時はもちろんですが、活動が継続・発展していることを伝え続ければ、取り上げられやすくなります。

また、取り上げてもらったらお礼の手紙一枚送るだけで印象がアップ! いざという時に、また取り上げてもらいましょう。

自分たちの活動を、さらに自信をもって進めていくためには

- 活動を発展していくために、客観的なアドバイスが欲しい
- 他の団体では、こんな時どうしているんだろう？

○「現場に解あり」。まず耳を傾ける

忙しいとつい目の前の仕事に追われがちですが、活動を息長く続けていくためには、今何が必要とされているのか、利用者や参加者、ボランティアさんなど、身近な人たちの意見をあらためて聞いてみるはいかがでしょうか。

大々的な調査やかしこまった面接でなくとも、アンケートや意見箱などの方法もあります。思わぬ隠れたニーズを発見できるかもしれません。

○地元大学を活用してみても

最近、各地に福祉系大学や福祉関係の学科のある大学や専門学校などが増えています。こうした学校では、学生に教えるだけでなく、実践現場との交流や実地調査、情報交換などの機会を求めています。各校のホームページの教員紹介などを見て、活動に対してアドバイスをもらえそうな先生と連絡を取ってみてはいかがでしょうか。福祉関係だけでなく医療、保健、教育、社会学などの学科も有望です。継続的にアドバイスをもらえるような関係づくりができれば、とても頼もしい支援者になります。

また学生は、ボランティアなど活動の参加者や協力者としても有望です。

地元大学等との協力関係は、社会的信用度のアップにもつながります。

○WAMもお手伝いします！

私たちWAMにもお手伝いさせてください！助成金情報の提供だけでなく…



- ・同じような活動をしている団体と情報交換してみたい！
- ・なかなか参加者が増えないけど、他の団体はどうしてるの？
- ・優れた事業をしている団体を視察してみたい！
- ・研修会に誰かいい講師はいないか？

こんな時にはWAMIにもぜひご相談ください。毎年1,000件近くの事業をお手伝いさせていただいている中で、解決のお役に立つような人、団体、事業などをご紹介できるかもしれません。まずはお気軽にお電話ください！

03-3438-9942 助成事業部 評価課（直通）

協力してくれた方々と息の長い関係を続けていくためには

- ・ **せっかく協力してくれた方たちを1回限りのご縁にたくない**
- ・ **参加しやすい体制になっているか**

○「気は心」。まず顔を出し、声をかける

一生懸命にPRしたり、説明や説得をして協力していただいた方たちが、1回きりのイベントなどで疎遠になってしまうのは何とも惜しいことです。

簡単な活動報告などを持ってたまに顔を見せるだけでずいぶん違います。特に商売をされているような方には、同じものを買うならたまにはその方のお店に行くなど、「気は心」、ギブ・アンド・テイクです。時々顔を出したり別の場面でお会いしたら積極的に声をかけるなどに心掛けるだけでずいぶん違います。

○手紙やはがき+α

もちろんご近所の方ばかりとも限りません。あるいは、近所でない方がたくさんおられるかもしれません。そんな時は、活動の近況を伝える報告や手紙などを送ってはいかがでしょう。

その際のポイントは、できる限りその人だけにあてた手書きの添え書

きをすることです。たとえ数行でも、一層親近感を持っていただけます。

○バザーなどの参加型のイベントや、その企画から誘う

ただ漠然と「また協力してください」、「いつでもボランティアに来てね」と言っても、言われた相手も実際のところ何をしたらよいのかわからず、誘った側も、何をしてもらったらよいのかわからないこともあります。

したがって、例えばバザーや新たな授産製品の試食会、研修会などの参加型のイベントなどを機会に声を掛けてみたらいかがでしょう。

またこうしたイベントなどは、それを成功させるためのプロセスに加わっていただくこともできます。例えばバザーなどは、場所を決めたり、PR、品物を集めたりする事前の準備、そして終了後の決算、お世話になった先への挨拶など、当日の販売以外にもたくさんの作業があり、たとえ部分的にでも地域の方々の知恵や力をお借りすることで、思わぬ効果があったりします。

バザーなどは収益を得ることも大切ですが、こうした協力をいただき、そのご縁を継続させる効果の方が、何倍も得るものが大きいかもしれません。



活動を継続させていくためには

- ・助成事業は何とか終わることができたけど
- ・息長く継続していくために、どんなことが必要か？

○助成事業終了後の継続状況

WAMでは、助成金で事業を終了されてから約1年半経過した時点で、事業の継続状況などをうかがう「フォローアップ調査」を実施しています。

平成19年度に助成事業を実施された825事業を対象として追跡調査したところ、その後も事業内容を充実・発展させて実施したり、あるいは一部縮小しながらも、「継続実施している」と回答のあった事業は95.2%（785事業）に上りました。

○継続していない場合の要因は？

反対に、継続していない場合の主な要因は次のとおりです。

（複数回答あり）

- | | |
|---------------|---------|
| ①「事業の目的を達成した」 | ……47.5% |
| ②「資金不足のため」 | ……32.5% |
| ③「運営体制に問題があり」 | ……22.5% |

①の場合はともかく、②、③の場合は、団体だけでなく、その事業の利用者や参加者、会員などのことを考えると非常に残念です。財源や運営体制をしっかりしたものにするための手立てには、どのようなものがあるでしょうか。

○活動財源をどのように確保するか

活動財源の確保は、ほとんどどの団体も抱える難しい問題です。

まず、補助金・委託などの公的支援はどうでしょう。行政に必要な事業として認められて財源を得るためには、日頃からの関係構築や、

実績の積み重ね、成果の上手なPRなどが重要になります。もちろんハードルは高いですが挑戦しがいがあります。また、こうした制度的な財源を受けるためには、NPOなどの法人格を持っていた方が断然有利といえます。

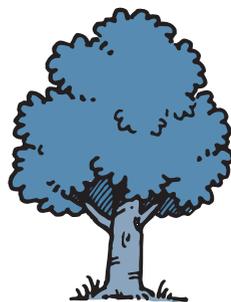
助成金はどうでしょう。WAMの助成金のほかにも、民間の財団等の助成金や共同募金配分金、企業による助成金、公的機関による助成制度など様々なものがあります。ほとんどの場合、審査によって決定されますし、他の申請者との競争となります。地域のニーズの質と量をしっかり把握し、誰もが納得するような明確な目的と具体的な方法を、いかに申請書に表現できるかが、勝敗、つまり審査結果の分かれ目となります（158 P.30）。

○自主財源の確保

しかし、こうした助成金を得られても、あまり長期間にわたって頼っていくわけにはいかない場合がほとんどです。こうした助成金などの多くは、特定の団体だけでなく、より多くの団体に使っていただきたい、と考えられています。

また、行政の補助や限られた相手からの助成金などであまり長い間支えられ続けると、決められた事業を続けることが目的となってしまう、新しいことに挑戦しようとするような、向上心ややる気が薄れていったり、いつの間にか団体自身の自主性や主体性が失われてしまうケースなども少なくありません。

したがって、自主財源の確保も非常に重要です。従来は会費や参加費などが中心でしたが、最近は積極的に寄付金を募ったり、収益のあがる事業を手掛けるなど方法も多様化しています。「福祉だからお金を儲けてはいけないのでは」ということでなく、しっかりと成果をPRすることで広く理解を得たり、授産品などを流通に乗せることのできる品質の商品として売り出すことをためらうことはありません。むしろ地域の方々の知恵を活かしながら、支援を



広げるきっかけにすることもできるでしょう。

特に、パンやお菓子、お弁当、工芸品などの商品を買ったり、喫茶店やレストランなどサービスを提供する場合、「福祉関係のお店だから」という珍しさや一時的な関心だけでは到底長続きしません。どの地域にも必ず、会計にたけた方、材料確保のルートに詳しい方など、頼りになる人たちがいるはずです。そうした技能や知識を持つ地域の皆さんの知恵を借りながら、よりよいものを目指しつつ、理解を浸透させていく努力が求められます (P.33)。

○最も重要、関係者のモチベーションの維持・向上

③の「運営体制に問題があり」の事例の多くが、「活動が停滞し始め、次第に人が集まらなくなってきた」、「メンバー間で仲間割れした」などを原因としています。

助成金のある最中は全員で夢中になって取り組んでいたが、助成が終わり一段落したところで燃え尽き (バーンアウト)、やる気や方向性を見失ってしまう、あるいは計画段階でしっかりと詰めていなかったために、次第にグループ内で亀裂が生まれ、助成が終わるころには仲違いしてしまった、など、毎年何件かの事例を見てきました。

大切なのは、ありきたりですが「情熱と冷静さ」でしょうか。活動を始めるきっかけとなった地域の課題は何だったか、どのような方たちのどのようなニーズに対応しようと企画したのかななどを、時々全員で振り返ってみてはいかがでしょうか。地域で困っている方たちの顔を思い浮かべて頑張れる情熱と、あらゆる情報や人脈を駆使して解決しようとする冷静さ。組織の風通しをよくして、節目ごとに振り返りを通してこうした意識共有をすることで、メンバーのモチベーションの維持・向上を図っていくことが原動力につながります。

助成金獲得のコツとは

- **どんな点に注意すべきか**
- **審査委員に理解してもらうためには**

○ **どんな活動をするのか、その財源は助成金がいいのか？**

最も基本的なことですが、まず「どのような活動をしたいか。そしてその財源はどうするのか」という点から、あらためてメンバーで考えてみるのが大切です。団体全体がどのような方向を目指すのか、そのための財源として、本当に助成金が相応しいのかをあらかじめ共有します。

意外かもしれませんが、案外多いで相談に「どういう事業が助成金を取りやすいですか？」というのがあります。これでは目的と手段が逆転し、本末転倒となってしまいます。

また、助成金には、活動に助成するもの、車の購入のための助成、あるいは障害分野限定の助成金など、様々な種類があります。助成金に事業を合わせるのではなく、事業に合った助成金を探しましょう（参考 P.37）。

助成金を利用する場合、申請書類の作成、支払いなどの執行管理、精算報告など、それなりの事務量が必要となります。今の状況でそれだけの事務の余力があるか、どのメンバーでその役割分担を担うか、など、あらかじめ想定し、責任も明確にしておいた方がよいでしょう。

逆に、こうした部分で一度信頼を失うと、再度信頼を回復させるためには、大変な時間と労力が掛かることとなります。

注 意

一部のメンバーだけで申請したため、精算の頃には主要メンバーの引越しや役員改選などがあり、残されたメンバーは助成を受けたことすら知らないという例も、残念ながら毎年見受けられます。

○どんな事業に助成されているのか知る

次に、関心のある助成金が、これまでどのような事業に助成されているかを知ることでも重要です。つまり実際の中身を知ること、その助成金が支援したい活動を具体的な事例を通して、より明確に知ることができるからです。

多くの場合、ホームページなどに優良助成先の事例紹介などがされています。WAMでは、ホームページの「e-ライブラリー」で、過去の助成先をキーワードで検索することができます（P.9）。場合によっては、計画している内容に近い事業を行った事例を探し出して、連絡を取ってみることで、事業のヒントを得たり、助成金の使い勝手や、申請のコツなどの情報も聞けるかもしれません。

○募集要領を読み込む

助成事業募集の情報を察知したら、どんな事業を募集しているのか、募集要領・要項などを入手し、よく読み込みましょう。

その助成金は何を目的に設置されているのか、どのような団体や事業が対象か、上限金額はいくらか、応募期限はいつまでか、必着か消印有効か、必要書類はどのようなものがあるか、自己資金は必要かなど、採択の可否を左右する重要な要素が詰まっています。反対に、これらの条件から外れてしまった計画は、せっかく苦労して応募しても基本的には無駄な努力になってしまいます。

○客観的な視点で申請書を再チェック

募集要領などをよく読み込んだら、記載例などを参照しながら、定められた応募様式に申請内容を記入しましょう。

そしてもちろん、その計画の必要性をしっかりと伝えることが非常に重要です。そのためにも、次のような事項を意識すると、頭の整理が付きやすくなります。

- ・どんな問題・課題があって
- ・どんなニーズが、どのくらいある
- ・それに対してどんな事業を企画しようとしているか
- ・それはどのように行うのか（方法、費用など）
- ・その事業を行うことでどのような効果があるのか
- ・どのような発展が期待できるか など…

気持ちがこもっているほど「この申請書を読んだ人は、絶対に必要な活動だと思ってくれるはず」と思いがちですが、どの申請者も「自分のところの活動が最も重要！」と思って作成していますので、提出前に関係のない第三者に読んでもらうこともお勧めします。

客観的な視点で眼を通してみることで、分かりにくい部分や、ご自分たちが当たり前だと思っても第三者には伝わりにくい表現などに気づくこともあり、そうしたアドバイスは何よりも貴重だからです。

なぜなら、どの助成金も審査委員会などを設けて選定が行われるのが一般的です。こうした第三者の委員が読むことを想定して、誰が読んでも事業のイメージがつかみ易い申請書にすることが非常に重要です。

どんなに素晴らしい活動でも、その計画の素晴らしさが上手く伝わらなければ採択されるのは難しくなります。

募集要領の読み方、申請書の書き方などでご不明な点や、過去の助成事例の照会など、いつでも助成事業部にお気軽にご相談ください。

03-3438-9945～6 助成事業部 支援課

03-3438-9942 評価課

最近よく耳にする「プロボノ」とは

- ・自然なかたちで地域の方々の力を借りたい
- ・経理やパソコンなど慣れないことを誰か教えて！

○新しい社会貢献のかたち、「プロボノ」

最近よく耳にする「プロボノ」という言葉。これは、仕事などを通じて培った知識や技能などを活かして行う、新しい社会貢献のスタイルを表す言葉です。

かつては欧米などで弁護士や会計士が行うこうした活動のことを指していましたが、最近では営業、広報、ITなど、あらゆる分野に広がりを見せています。

○「プロボノ」にどんな支援が期待できるか

様々な形の支援が期待できます。企業にお勤めの方なら、簿記や会計管理、各種申請書類の作成などのお手伝いなら、きっとお手のものでしょう。パソコンなどもビジネスには今や必須です。主婦の皆さんの子育てグループや、高齢者の皆さんによる団体などで、あまりパソコンになじみのない場合は、ビジネスマンの協力者は、とても心強い味方になるでしょう。

あるいは、イベントや寄付金募集の広報なども、デザイン関係の方の手にかかれば、より効果の高いものが出来上がることでしょう。

要するに、あまり肩肘張らずに、お持ちの知識や技能で手伝っていただけませんか？ということです。

○どのようにきっかけをつくるか

ボランティアより間口が広く、気軽にお手伝いできる印象のプロボノですが、活動したい側とそれを受け入れる側のマッチングは、意外に難しいものです。

特に活動したい側は、きっかけがないと敷居が高いと感じているものです。自治会や学校関係など、地域の日頃のお付き合いの中で、必要とする技能を持っていそうな方を探していることをPRするのも一つの方法ですし、企業の社会貢献の担当者を訪ねて相談してみるのも有効でしょう。

また、「ボランティア募集」ですと多少抵抗のある人たちにも、「プロボノ募集」と広報したり、あるいは「最近流行りのプロボノとは？」といった講座を開催して、参加のきっかけをつくっていくのはいかがでしょうか？



NPO法人制度についての豆知識

○NPOとは？

「NPO (NonProfit Organization)」とは、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称です。

そのため、収益を目的とする事業を行うこと自体は認められますが、事業で得た収益は、様々な社会貢献活動に充てることとなります。

このうち「特定非営利活動法人」とは、特定非営利活動促進法に基づき法人格（個人以外で権利や義務の主体となり得るもの）を取得した法人です。法人格の有無を問わず、様々な分野（福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力など）で、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されています。

○特定非営利活動法人制度とは？

NPOの中には法人格をもたず活動しているところも多数あります。しかし、法人格を持たないと、銀行口座の開設や事務所の賃借などを団体の名で行うことができないなどの不都合が生じることがあります。

特定非営利活動法人制度とは、こうした不都合を解消しNPO活動を促進することを目的に、NPOが簡易な手続きで法人格を取得できる仕組みです。

自由な法人運営を尊重し、情報公開を通じた市民の選択・監視を前提に、所轄庁（原則事務所がある都道府県知事）の関与が極力抑制された制度となっている点が大きな特徴です。

（出典：内閣府NPOホームページより）

○NPO法人化のメリット・デメリットは？

NPO法人格を取得するメリット・デメリットはいろいろ考えられますが、主として次のような点があげられます。

メリット

- ・権利の主体になることができる
…例えば、登記や車の登録、賃貸借や電話の契約などの行為が、団体の名前でできるようになる
- ・社会的な信用力が向上する
…登記や決算報告がされている「法人」として認められる
- ・資金調達がしやすくなる
…補助金や助成金、融資などが得られやすくなる
- ・委託事業など、公的な事業や規模の大きな事業の話を受けやすくなる…など

デメリット

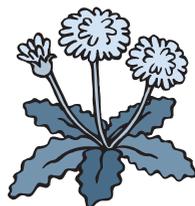
- ・様々な社会的義務を負う
…所轄庁への事業報告書等の提出や備え付けなどの情報公開、税務署、都道府県税事務所及び市町村に対する届出、理事会や総会の開催など
- ・これらに係る事務処理が増加する…など

したがって、NPO法人格を取得する場合は、団体内でよく話し合うことをお勧めいたします。

NPO法人格の取得方法やその他関係法令などについては、内閣府NPOホームページなどをご覧ください。

内閣府NPOホームページ

<http://www.npo-homepage.go.jp/index.html>



WAM以外の助成団体は？

ここでは、WAM以外の代表的な助成団体等をいくつか紹介してみます。

〈社会福祉全般に対する助成団体〉

- ・ 日本財団（財団法人 日本船舶振興会）
<http://www.nippon-foundation.or.jp/>
- ・ 財団法人 JKA
<http://ringring-keirin.jp/>
- ・ 郵便事業株式会社（年賀寄付金配分事業）
<http://www.post.japanpost.jp/kifu/>
- ・ 財団法人 三菱財団
<http://www.mitsubishi-zaidan.jp/>
- ・ 公益財団法人 トヨタ財団
<http://www.toyotafound.or.jp/>
- ・ 社会福祉法人 丸紅基金
<http://www.marubeni.co.jp/kikin/index.html>
- ・ 社会福祉法人 NHK厚生文化事業団（わかば基金）
<http://www.npwo.or.jp/wakaba/>
- ・ 全国労働者共済生活協同組合連合会（全労災）助成活動
<http://www.zenrosai.coop/torikumi/joseijigyou/index.php>

〈高齢者・障害者関係〉

- ・ 社会福祉法人 清水基金
<http://www1a.biglobe.ne.jp/s-kikin/>
- ・ 財団法人 ヤマト福祉財団
<http://www.yamato-fukushi.jp/>
- ・ 財団法人 損保ジャパン記念財団
<http://www.sj-foundation.org/>

〈子ども関係〉

- ・公益財団法人 キリン福祉財団
<http://www.kirin.co.jp/foundation/>
- ・財団法人 日本生命財団（ニッセイ財団）
<http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/index.html>

〈障害者スポーツ関係〉 ※一般スポーツ助成も含む

- ・独立行政法人 日本スポーツ振興センター（スポーツ振興助成）
<http://naash.go.jp/sinko/>
- ・財団法人 笹川スポーツ財団
<http://www.ssf.or.jp/aid/index.html>
- ・財団法人 ヨネックススポーツ振興財団
<http://www.yonex.co.jp/zaidan/joseikin.html>

上記の他にも、助成先団体は例えば市町村共同募金会など数多くあります。お近くの社会福祉協議会や行政（市区町村）などにたずねてみるのもよいと思われます。

また、公益財団法人助成財団センターやNPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会が運営するサイトのHPにも、各種助成金情報が紹介されていますので、そちらもご参照ください。

- ・公益財団法人 助成財団センター
<http://www.jfc.or.jp/>
- ・NPOWEB
(NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会)
<http://www.npoweb.jp/>



他に役立つサイト何かありますか？

この冊子では、各ページに様々な団体などのHPアドレスを掲載し、皆様方が何かを調べる時に役立っていただけたらと考えております。

その他、以下に皆様に役立ちそうなサイトを挙げてみますと…

〈企業のリユースパソコンを提供している団体〉

- ・ 認定特定非営利活動法人 イーパーツ
<http://www.eparts-jp.org/>
- ・ 特定非営利活動法人 イー・エルダー
<http://www.e-elder.jp/public1/>



〈スポンサーが見つければ、ユニフォームが無料で手に入る〉

- ・ ゲットユニフォーム
<http://www.getuniform.com/>

〈NGO／NPO募金・寄付の情報サイト〉

- ・ イーココロ！
<http://www.ekokoro.jp/>

〈NPOの総合情報サイトなど〉

- ・ 全国のNPOを検索できるサイト「NPO広場」
<http://www.npo-hiroba.or.jp/>
- ・ NPOの総合情報サイト「NPORT」
<http://www.nport.org/>
- ・ WAM NET(イベント情報が掲載できます！)
<http://www.wam.go.jp/>

〈NPOのリンクなど〉

- ・ 特定非営利活動法人 日本NPOセンター
<http://www.jnpoc.ne.jp/>

※このHP内に、全国各地のNPO支援センターの問い合わせ先や各種参考書籍なども掲載されています。是非ご参照ください！



MEMO



A large rectangular area with a light blue background and a thin blue border. It contains 20 horizontal dashed lines for writing.

お気軽にお問合わせください

「助成事業に役立つヒント集」をご覧いただきまして、ありがとうございます。

これまで様々な助成事業をお手伝いしてきた経験の中から、皆さまのお役に立ちそうなヒントや情報、事例などを事務局スタッフが選んで編集しました。

今後も版を重ねながらよりよいものにしていこうと考えておりますので、皆さまのご意見ご感想など、ぜひお寄せください。

そして、WAM助成事業部では、助成事業の応募や各種事務手続きのご案内はもちろん、例えば「計画中の事業の参考になるような助成事例」のご紹介など、皆さまの事業実施のお手伝いを積極的に行います。

どうぞお気軽にご連絡ください！

〈お問合わせ先〉

- 資金の交付手続きについて
助成企画課 ☎03-3438-4756
 - 助成事業の応募や事務手続きについて
支援課 ☎03-3438-9945～6
 - 助成事例の紹介や事業評価について
評価課 ☎03-3438-9942
- 〈電話：月曜日～金曜日AM8：45～PM5：30（土日祝祭日を除く）〉

〒105-8486

東京都港区虎ノ門4-3-13神谷町セントラルプレイス9階

独立行政法人福祉医療機構 助成事業部

メール wam_jyosei01@wam.go.jp

FAX（共通）03-3438-0218

<http://www.wam.go.jp/wam/>

お気軽にご連絡ください！



わたしたちは、この助成を
通じて、高齢者・障害者が
自立した生活を送れるよう、
また子どもたちが健やかに
安心して成長できるように
支援を行います。



独立行政法人福祉医療機構

〒105-8486 東京都港区虎ノ門4-3-13
神谷町セントラルプレイス9階
TEL 03-3438-4756(直)
FAX 03-3438-0218

助成事業部

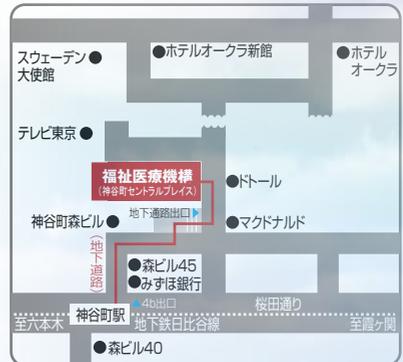
- 助成企画課 TEL 03-3438-4756
- 支援課 TEL 03-3438-9945~6
- 評価課 TEL 03-3438-9942

ホームページアドレス

<http://www.wam.go.jp/wam/>

メールアドレス

wam_jyousei01@wam.go.jp



【地下鉄】日比谷線神谷町駅(虎ノ門方面4b出口)より
徒歩2分

【J R】新橋駅又は浜松町駅よりタクシー約10分